フラワーガーデン

冬が来る前に・・・

庭の樹木にも秋の訪れを感じる季節となりました。秋は日増しに深まってきます。そろそろ冬への準備を始めましょう。

綾歌普及センター
井口里香

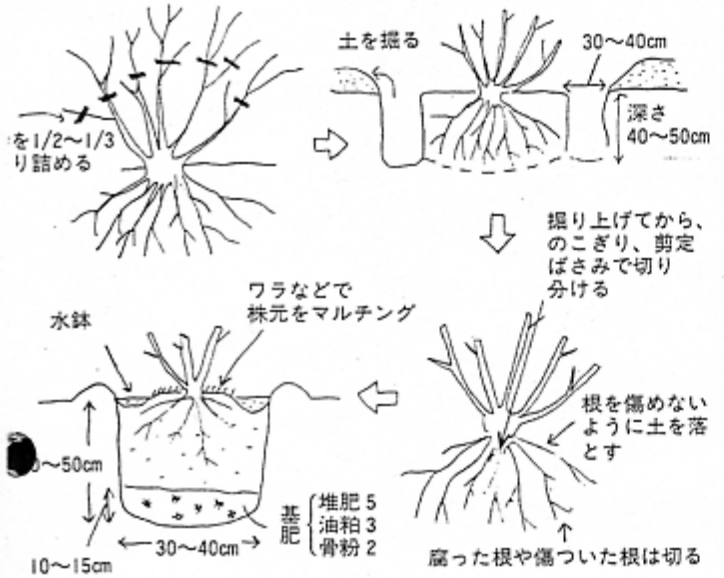

図1　落葉花木（低木類）の株分けと植えつけ

●落葉花木の株分けと移植

冬支度の前に今が適期という作業が、ユキヤナギ、コデマリ、ハギ、レンギョウなどの落葉花木類の株分けや移植作業です。厳寒期の一〜二月を除いた十一月上旬から三月中旬までが適期です。寒さが来る前にできるだけ早めに済ませましょう。

株分け方法は、まず、大株になった株の幹を一／二〜一／三に切り詰め、株の周囲に溝を掘り、できるだけ根をたくさんつけて掘り上げます。掘り上げた株は根を傷めないようにして土をふるい落とし、のこぎりや剪定ばさみで二〜五株に切り分けます。

分けた株は、根を乾かさないようにして図一のように植えつけます。植え終わったら水鉢をつくり、たっぷりと水を与え、最後に株元にワラなどでマルチングをします。

株分けをすることにより、株が若返り、二年後には立派な株に生育します。

●マツのもみあげ

秋のマツの手入れとして、夏芽の伸長が止まった後の十月中旬〜十二月中旬にかけて行うもみあげ作業は欠かすことができません。

まず、伸び過ぎた枝やこみあった枝を間引き、次に二年目以上の古葉を全部手でもぎ取ります。そして、全体のバランスを見て一年目の新葉の約一／三を新梢に注意

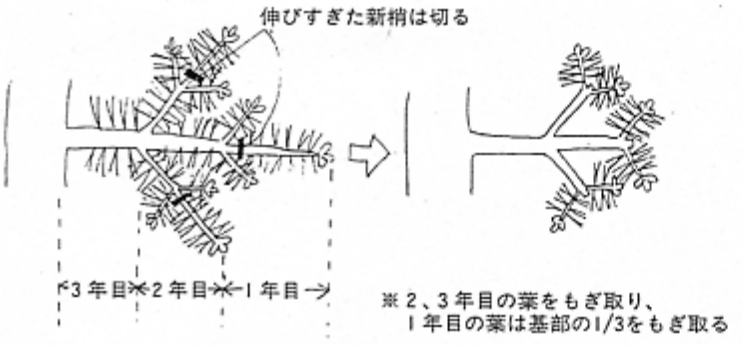

図2　マツのもみあげ

しながら手でもぎ取ります。

マツ類の葉は、普通二年目の秋から三年目の秋にかけて落葉します。しかし、そのままにしておくと、風通しが悪くなったり、カイガラムシ、葉ふるい病の発生原因にもつながります。病害虫の予防の点から、この時期にすっきりとした姿に手入れをしておきましょう。

●樹木の防寒と幹巻き

香川では雪は滅多に降らないので樹木の雪囲いや雪吊りなどの保護は必要ありませんが、移植直後の大木や衰弱した木には幹にワラや紙、緑化テープなどを巻きつける防寒対策が必要です。そして、これは木の養生にもなります。

幹巻きは、図三のように地上一～一・五mのところにコモワラを巻いたものです。この時期公園の松の木などでよく見かけますが、これは、冬の寒さから逃れるために集まった虫たちがこのコモワラの中で越冬し、春先、虫たちが動きだす前にコモワラを取り外して焼却するという害虫駆除方法のひとつです。このとき、コモ巻きしてあった幹をよく点検し、虫が残っていれば、殺虫剤を散布しておきます。

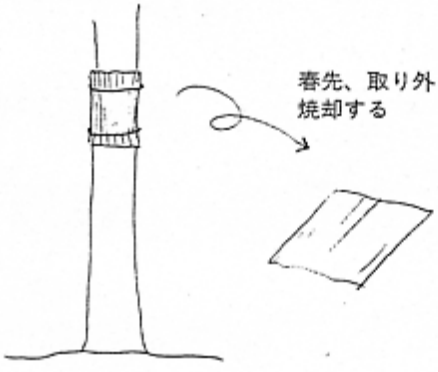

図3　幹巻き（コモ巻き）

●落ち葉の焼却

病気にかかって落葉した葉には病原菌が死なないで付着しています。翌春、気温の上昇とともにそれが伝染源となって新しい葉に発病します。また、落葉の下には害虫もたくさん潜んでいます。落ち葉はかき集めて焼却しましょう。

今が見ごろ 旬の花

河江　正明

山茶花

晩秋とはいえ、朝晩の寒さに、冬の足音を聞くような季節。ふと気がつくと、いつの間にか少なくなった花々に代えて、山茶花が鮮やかな花姿を見せてくれます。

これから春まで、椿の仲間が次々に咲いてくれますが、山茶花はその最初を彩ります。

サザンカは、もともと白一重の野性種から改良されたもので、開花期は十～十二月。椿とちがって花弁が一枚一枚分かれて散ることなどからわかります。

ただ、江戸期の椿ブームで、椿の仲間の交雑が進んだために、椿のような山茶花や、散り椿もあって、判別は難しそうです。

名前の由来は、漢名の山茶花の音読みから、訛ったという説と、茶山花と逆読みしたという説があります。

花言葉は「理想の恋」。花言葉の盛んな欧米では、椿の仲間は東洋のバラとも呼ばれる華麗な花ですから、そうともとれますし、しっとりとした庭で、冬の陽ざしを浴びながら、控え目に、しかし鮮やかに咲いているのがいいのか。どちらも世の男性には理想の女性ではあります。

庭木に良し、垣根に良し、茶花にも良し。植木市で簡単に買える庶民の花でもあるし。

今月は、山茶花の良さを、こころゆくまで楽しんで下さい。

山茶花は白一色ぞ銀閣寺

小沢　碧童